
《 コ ト バ ? 》

ベル少年

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

《コトバ？》

【Nコード】

N8247Z

【作者名】

ベル少年

【あらすじ】

「この書き物はベル少年（＝作者）と！」『その頭の中に住んでると思われる謎の人格との対話による物語だ』「なんとなくケット・シー（猫の妖精）が好きだからケイトに決めた、今決めた！」『論外。詩紅シヅでok。てかそんな名前されたらバカがうつるだろ』「漢字めんどくさいから以降シクで統一っ」『……とりあえずこんな作品だがよろしくってことで』「よろしくさんっ、あらすじ変えたついでに、タイトルもより健全に変えたよ！」『リピーター（いるのか？）がガリガリ減りそうだな』「そもそも読む人ほとんどいない

から大丈夫じゃないかな？」

『……まあそうだな』

書き始めの苦勞（前書き）

あ、うまくいったね。

せっかくだから適当に書いた文章のせとこ。

みたいな状況です。終わり良ければすべてよし！！

書き始めの苦勞

これからいう言葉はすべてテスト用であり、なんかよくわからんが投稿できなかったの

適当な文章をつらつらと書き連ねていくことになる。正直わけのわからない現実に、

いよいよ鬱になりそうだと、今にもダークサイドに堕ちそうないや、もうすでに堕ちていそうなオーラを出している。

そう、何を隠そうこの私。実は魔法使いだからオーラが見えてるかもしれないのである。

ん、お前のほうが分けワカメ？

ああ、すまない。言葉が足りなかったようだ。「かも」というのはそう！

じつはこん（ry、へっぽこ魔法使いだからよく見えないのである！！

ってこら、何で後半略さんかった！！

（え、重要そうだったので……）

そこは適当ににごまかしてよ！恥ずいじゃん！！

（え、むしろ最初っから恥ずいと思いますけど）

ぐさ！今君の言葉がぐさって刺さった！！僕、ガラスのハートだからパリーンって割れちゃったよ！？

（……。（コイツめんどくせえなあ……）

く、そ、それはさておき↑心が割れているので苦しそうにしている。いつのまにか400字越えてたね。200でよかったのに。

（そうやってしゃべっている間に450こえてますよ）

え！？

（500逝きですね）

え、何その字怖い。

（んじゃ、そゆことで。さよなら）

يٰٓمَعْشَرَ
الَّذِينَ
آمَنُوا

書き始めの苦勞（後書き）

なんかよくわからないけど200書かなきゃ投稿できないぜ？だったんです。

適当に、本で言うなら表紙だけ作ろうとしてただけなのに……。

（あきらかにそれを防止するためである）

とにかく、次はまじめに書けるといいな！！

（先が不安である）

注意書きであるはずの何か（前書き）

作者は実は多重人格者なんだ。

というわけではないです。

耳を澄ませば声がする↪現実からOUTしだしたようです。

注意書きであるはずの何か

ここから先は注意書きだよ！

(そだよ)

その1！

作者はスケベでも変態でも同性愛者でもないよ！
誤解しないでね、繊細だから！！

(え、主にどこらへんが？ 鼻の穴の粘膜？ それとも黒目の辺り？ まさか食道！？)

なんでぬめつとしたとこにこだわるのさ……。

その2！

作者の性別は聞いちゃだめ！ 年齢も！
なぜかわかるかな？

(男だとオカマで、女だとシヨタとかwwで、子供だとナデナデで、)

(老人だといえ……っ？で、おじさんだとキモい氏ねって言われるからだよ☆)

明るく言わないでー、それとおじさんかわいそうだよー。てかなんでおじさん？

子供との扱いの差がかわいそすぎるよ……。……ちなみにおじさんじゃないからね？

(うわ、おじさん裏切った。今、君は全世界の中年のビール太りの窓際族のおじさんを敵に回したぞ！)

だからなんで限定すんのさ！？

え、なに？ ボクが痩せてるからって僻んど――

(僻んでないっ！！)

……。

(……。)

え……えと、人間、バランスが大事だと思うよ？

筋肉さえもろくないガリガリよりもきれいに整っているほうがいいと思うんだ。

ほら、時々テレビで拒食症の人出たりするじゃん。

(うう、おぬしにはわからんさ。女子というものはひたすら痩せたいと願う生き物なのじゃ……)

え、何この空気。どうすればいいの？

うゝ……あ。

そういえば注意の途中だったね!!

(え？　むしろ何で忘れてんの？　さっさと進めてよ)

復活はやっ……てかお前も忘れてただろ。

その3！

1，2は作者の名誉の為の注意でした！

繊細だから変な誤解されると死に掛けるよ!!

そしてしょによ……うおっほん！

(文字なのに噛むのか)

その3は君たちの為の注意だよ「無視」。読みとばすのは無しだよ！
この小説？は作者が適当に思いついたことを書き連ねるというか
だいたい即興で書き上げるものだから、カオスです、混沌です。む
しろ

『ぶいつつうくうう……ぶばああああああんん
ん』

だよ！おかしいよ！ごちゃ混ぜだよ！怖いからタグにR15、BL、
GL、グロ全部入れたよ！注意してね！

(……ちっ、うるせえなあ)

え、え？　ごめん。

（まあこんな感じでしょうっちゅう暴走する馬鹿だ。）

（感染すると困るやつは3GKm「3ギガキロメートル」は離れることをお勧めする）

え、地球そんな広かったっけ？

（同じ太陽系にいただけで感染しそうだって意味だよ）

え、よくわかんないけど今いじめられてるよね？

すっごい悪意を感じる！

（読者の方々はこんな脳細胞終わってしまわないようにご注意くださいええ）。じゃ、そゆことで）

ちょ、置いてかないで！

えと、またね？？でいいのかな。またね！！

注意書きであるはずの何か（後書き）

こういうときにぴったりの言葉があるんだ。

『ど、どうしてこうなった!?!』

いわずにはいられない。

適当に書いたせいだとわかっていても!!

「試合に惜しくも負けたスポーツ選手のような表情」

ごはんにするr（ryをいろんな人が言ってる（前書き）

『ごはんにする？ お風呂にする？ それともわ・た・し？』
っていうのあるよね。

あれをいろんな人がいうとどうなるかなって考えたのが
すべての元凶だったのだ！！

そうしてこの連載小説？が始まった！！

ごはんにするr（ryをいろんな人が言ってみる

ねーねー。

（ん？）

ごは（ryっていうのあるよね。

（略しすぎだろ）

あれを男の子が言うとうなるのかな。

（お、おいばかやめろ！！）

ええい！もう誰も私を止められない！！

（そして今日。世界は終わった……）

そしてはじまるのだあー！！

てっててれっ！ てててんっ！

いろんな人がg（ryをいってみた！ わーわー！

（……。「その瞳には絶望の二文字が映っていた」

では、どうぞごらんくださあーい！

イケメン（照「イケメンボイス」

「おかえりー。飯と風呂どっちにする？

……なんなら俺……わーっ！ 今の聞かなかった事にしてくれ！」

イケメン（妖艶？「甘いボイス」

「ご飯とお風呂どっちがいい？ それとも……ボクにしてみる？」

親父（娘へぶっきらぼうに

「飯と風呂どっちが先だ？ ……そ、そういえばお前の誕生日だな。

今日一日なんでもしてやるぞ」

お爺さん（お婆さんへ

「たまにはわしも家事をせにゃあな！ 飯か？ 風呂か？ それともベ〜〜」

「やめんさい！ いい年こいて恥ずかしい！（照」

「——ごぶふおあ！？」

シヨタ（意味もわからず元気な声で

「ねえ、ボク。これ読んでみてくれるかな？」

「うん！えと、ごはんにする？ おふろにする？

それとも……ボク？ これでいい？ っておねーさん！？」

「ぶふおっ（鼻血」

スポーツ男子（禁断の……？

「おーい帰ったぞー」

「おう、お帰り！ メシと風呂どっちがいい？ それとも……俺とやってみるか？」

「……やー、最後は全力で遠慮したいww」

「ははは、そう言ってくれなかったらどうしようかと焦ったわww」

（最後本気で焦ったわ。いきなりBLかと本気で焦ったわ）
大事なことなので2度言いましたー！

（つうかシヨタのやつは犯罪臭いぞ……）

小説の中では何してもいいんだよー！

拷問抹殺暗殺殲滅虐殺なんでもござれだね。

（思考回路が物騒すぎるわっ）

でも現実には殴っても犯罪だから注意だよー！

（さすが、保険をあまり忘れないな）

それじゃまたいつか。

（3分後か3世紀後かはわからんがな）

ごはんにす r (r yをいろんな人が言ってみる (後書き))

とっても全年齢です。BL期待した人ごめんね！
たぶんそんな機会一生来ないかもしれないけど来るといいね！！

森のクマっさんをやってみた。(怖いかも)(前書き)

(いきなり3話投稿したかと思ったら3日後か……)

痛い、こいつまた放り投げる気だったろって感じの白い目が痛いっ！！

(で、今度は森の熊さんか)

うん。でも地と○じゃ会話文しか入れられないことに今気づいた。書き始める前に気づくなんて。べる、天才過ぎるゝ！！

(うんそうだねえらいねー)

棒読みレベル58だっ！！！　そ、そんな馬鹿な……「バタツ」

(ここから先は「」と『』で進行、地は情景描写だから作者も注意するように)

え、スルーされt

『いきなりわすれんな。』「ガッ、バゴッ、ドスッ、ボグッ、バギヤ

(ry)』

——本文までしばらくお待ちください——

森のクマっさんをやってみた。(怖いかも)

「やほー！ みんなのアイドル、ベルさんだよ」

『今回からシクって名前になったらしい詩紅だ(ち、もう復活したか)』

「わざわざ名前2回も言わなくていいのに」

『漢字で考えたのにカタカナになったせいだ。大いに反省しやがれ』

ここで、ベルは気合で脳内空間に舞台を作り出した。

「それはさておき。今回は森のクマっさんをやるわけさ！」

『おまえ、あかずきんでいいな』

「あれ、あかずきんできたっけ」

『あかずきんがお母さんのお使いのついでに森を散歩してたらクマに食べられる話だろ』

「そ、そのくらいおぼえてるよ。やだなあ……って食べられちゃうの！ 痛いのだよ！」

『安心しろ、丸呑みにしてやる』

「それ安心できない！」

テロテッテレレ♪ テロテッテリロ♪ リロリレロリレ♪

ある日、あかずきん(ベル)はおかあさんにお使いを頼まれました。

【お母さん(紙製)】「あかずきんや」

「なあに？ おかーさん」

【お母さん(紙製)】「もうそろそろおばあちゃんの猟銃の銃弾が切れていることでしょうか」

【お母さん（紙製）】「ワインとチーズ、それから傷薬と一緒にも
っていつてくれるかい？」

「はい」

ララランランランラ〜♪ ララランランランラ〜♪
あかずきんが鼻歌を歌いながら歩いていると森の奥から猟師さんが
やってきました。

【猟師さん（木製）】「おや、あかずきんちゃんじゃないか」

「猟師さんこんにちは！ いいお天気ですね」

【猟師さん（木製）】「あかずきんちゃんはいつもいい子だね。僕
の家で剥製にならないかい？」

「ごめんなさい、いまお使いの途中なの」

【猟師さん（木製）】「それなら仕方ないね。また今度紅茶でもご
馳走してあげよう」

「ありがとう猟師さん！ またね」

あかずきんちゃんが猟師さんと別れ、森の奥へと歩いていると道が
二つに分かれました。

「うーん、どっちだったかな」

困ったあかずきんが棒を投げて決めようとしたところ、狼に乗った
おじさんにあたってしまいました。

【おじさん（生もの製）】「ゴボッ」

「お、おじさんだいじょうぶ!？」

【おばあさん（ミスリル製）】「こいつはあたしの甥さ。このくら
いじゃ死なないよ」

「え?。」

狼に乗ったおじさんの後ろから、颯爽とおばあさんが飛び降りました。

【おばあさん（ミスリル製）】「おや、あかずきんじゃないか。3年ぶりだね」

「もう、おばあちゃん。4日ぶりだよ」

【おばあさん（ミスリル製）】「そうだったかね。まったく世界はいつものろのろしてやがる……」

【おばあさん（ミスリル製）】「まあ、立ち話もなんだ、うちに来るといい」

「はい、えと、おおかみさん、よろしくです」

【おばあさん（ミスリル製）】「はっはっは。そんなおびえなくていいよ、こいつはおとなしいからね」

【おおかみ（肉片製）】「ゴメンナサイモウウルシテクダサイ……ア、ア、ア、アッ」

「すごい！ あの凶暴な狼をしつけるなんて」

【おばあさん（ミスリル製）】「ふふ、あたしにかかれば食後の運動代わりさ。さあいこうか」

おばあさんの家に着き、弾などを渡して紅茶を飲んでいるとおばあさんが話しかけてきました。

【おばあさん（ミスリル製）】「こんな森の奥にまでよくきたね、怖くなかったかい？」

「ううん、みんなとても親切だったよ」

【おばあさん（ミスリル製）】「そうかい、それはよかった」

「あ、おばあちゃん。毛皮に紅茶が落ちてるよ？」

【おばあさん（ミスリル製）】「ああ、それはいけないね……よし、きれいになった」

【おばあさん（ミスリル製）】「お母さんも心配してるだろう？そろそろ帰ろうか」

「うん！」

おばあさんと森の道をのんびり帰っているとさっきの森の分かれ道に着きました。

【おばあさん（ミスリル製）】「そうだ、おかあさんにお花を摘んであげようか」

「え、この森には人を食べないお花があるの？」

【おばあさん（ミスリル製）】「ああ、うちに向かうのとは反対側の道にあるんだ」

「ほんとに！」

【おばあさん（ミスリル製）】「もちろんさ、さあいこうか」
「うん！」

おばあさんにつれられ、反対の道を進むときれいなお花が咲いていました。

とてもいい匂いのする花で、匂いをかぐと少し眠くなります。

「すごくいい匂いのする花だね……」

【おばあさん（ミスリル製）】「ああ、そうだね。じゃあゆっくりと……お腹に……収ま……さい」

あかずきんが重いまぶたを開けるとおばあさんが大きな口をあけていました。

「だが断る！」

あかずきんは手元の土を投げつけ、横に転がった。

【くまっさん（シク製）】「く、なぜ……」

「解毒剤を飲んでおいたのさっ！」

「おまえの下手な変装はお見通しだ、熊め！ 魔法少女ア・カズキンいざまいr——ゴボッ」

『オイコラ、誰が下手な変装だこら。フラグのためとかいってくまの着ぐるみの上に、』

『服を着るだけにしろとか言ったのてめえだがコラ。おばあさん役とかてめえ死にてえのかコラ』

「く、いつもやられっぱなしだからやり返そうと思ったのだが、そこまで言うのならわかった！」

「正々堂々貴様を倒し、オレはSになる！」

『吼えてやがれこのドMが！ 貴様は一生ドMの底辺人生だっ！』

あかZ……いやもういいだろう。ベルはこぶしに大自然のエネルギーを集めだし、

シクは古代魔術を唱え始めた。

大地は揺れ、空は重く曇っている。二人から発せられるエネルギーは周囲へ重圧となって、

重くのしかかる。村人Aがこの場に居ればこういうだろう。この世の終わりだ、と。

「喰らえっ！ サディスティックストロングベルさんパーンチッ！

！」

『次からは私が主人公だ！ 適当超強力念動力的冷凍ビーム！！』

二つの力がぶつかり世界は白く染まった。

「……的な感じの台本がここにあるのだが」

『いや、ないわ。そんなアホい展開すごい嫌』

「（。ー、）」

『つか本物のおぼあさんは？』

「そもそも森じゃなく、町の方だったという方向音痴的展開に」

『変態とかグロいところあるんだけど』

「いや、猟師さん⇨猟奇的で、狼さんはシクならやりかねn」

『死にたいのかな☆』

「ぎゃああああっ」

ベルは世界からログアウトした。

森のクマっさんをやってみた。(怖いかも) (後書き)

「うん、今日もどうしてこうなっただね。正常運転安心安心!」

『すんな。まともなの書けよ』

「私に……できるだろうか……」

『あー……すまん無理だったな』

「哀れむような目で見ないでーっ!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8247z/>

《コトバ？》

2011年12月29日01時53分発行